秋 田 市 内 企 業 景 況 調 査 結 果

（ 2021 年 1～3 月期 ）

秋田商工会議所

〈内容〉

- 全産業の項目別ＤＩ値
- 産業別ＤＩ値
- 設備投資
- 経営上の問題点
- 付帯調査
- 総括表

＊景気判断・ＤＩ値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（▲：マイナス）

〈回収状況〉

業　種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	50	41（82.0%）
製造業	50	40（80.0%）
卸売業	50	33（66.0%）

業　種	対象企業数	有効回答企業数
小売業	50	37（74.0%）
サービス業	50	40（80.0%）
合　計	250	191（76.4%）

Ⅰ．全産業の項目別ＤＩ値

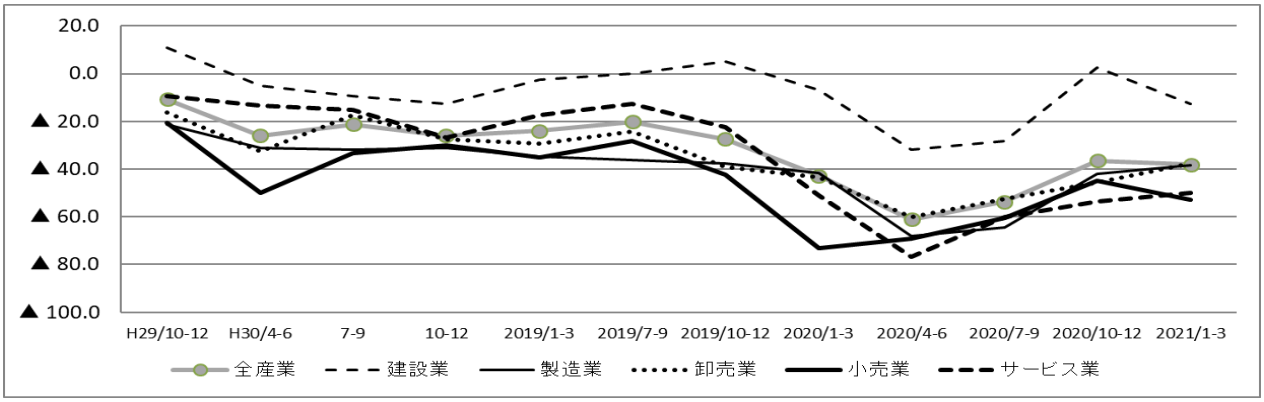
１．業況

今期(1～3 月前年同期比)の業況ＤＩ値は、全産業で▲38.0 と前期と比べわずかながら悪化した。

産業別では、建設業が前期のプラスからマイナスへ転じた。小売業は悪化し、厳しい状況となる一方、卸売業、製造業、サービス業は改善した。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲23.6 と今期と比べ大幅な改善を見通している。産業別では、小売業、サービス業、卸売業、製造業で改善を見通している。特に小売業、サービス業はそれぞれプラス 33.2 ポイント、プラス 29.5 ポイントと大幅な改善を見通している。一方、建設業は悪化を見通している。

	前期（10～12月）		今期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し(4～6月)	
	（A）	（B）	（C）	（C）−（A）	（D）	今期比（D）−（C）
全　産　業	▲ 36.5	▲ 42.5	▲ 38.0	−1.5	▲ 23.6	+14.4
建　設　業	2.5	▲ 22.5	▲ 12.5	−15.0	▲ 24.4	−11.9
製　造　業	▲ 42.1	▲ 38.3	▲ 38.5	+3.6	▲ 35.1	+3.4
卸　売　業	▲ 45.7	▲ 45.7	▲ 37.5	+8.2	▲ 18.2	+19.3
小　売　業	▲ 44.7	▲ 60.5	▲ 52.7	−8.0	▲ 19.5	+33.2
サービス業	▲ 53.6	▲ 46.4	▲ 50.0	+3.6	▲ 20.5	+29.5



２．売上額・完成工事額

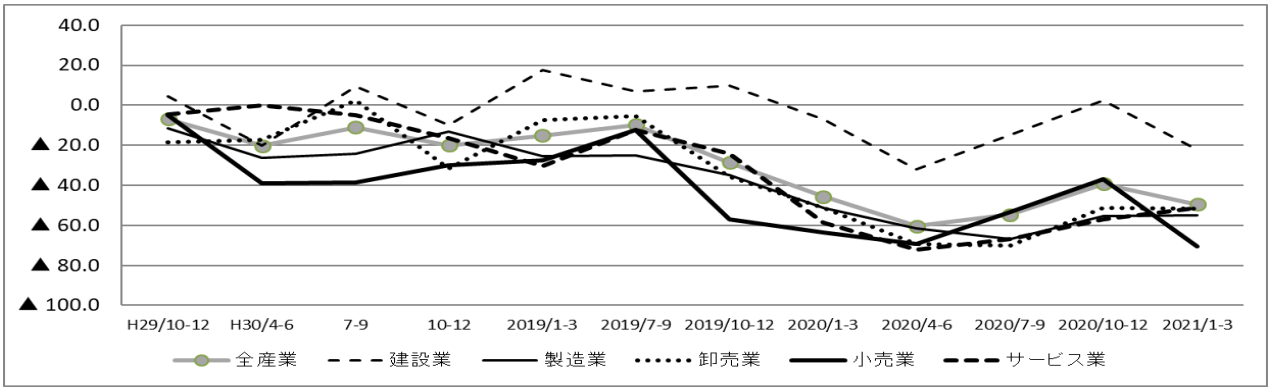
今期(1～3 月前年同期比)の売上額・完成工事額のＤＩ値は、全産業で▲49.5 と前期と比べ悪化した。

産業別では、卸売業、製造業がほぼ横ばい、建設業はマイナス 24.5 ポイントと大幅に悪化し、前期のプラスからマイナスに転じた。また、小売業もマイナス 33.5 ポイントと大幅に悪化し、厳しい状況となった。一方、サービス業は改善したが厳しい状況が続いている。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲20.5 と今期と比べプラス 29.0 ポイントの大幅な改善を見通している。

産業別では、建設業が横ばい、他の４業種は改善を見通している。特に小売業はプラス 50.9 ポイントの大幅な改善を見通している。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
		来期見通し(1～3月)		前期比	来期見通し(4～6月)	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 39.3	▲ 45.6	▲ 49.5	－10.2	▲ 20.5	+29.0
建設業	2.5	▲ 2.5	▲ 22.0	－24.5	▲ 22.0	0.0
製造業	▲ 55.3	▲ 44.8	▲ 55.0	+0.3	▲ 20.0	+35.0
卸売業	▲ 51.4	▲ 60.0	▲ 51.5	－0.1	▲ 27.3	+24.2
小売業	▲ 36.8	▲ 71.0	▲ 70.3	－33.5	▲ 19.4	+50.9
サービス業	▲ 57.1	▲ 52.4	▲ 51.2	+5.9	▲ 15.0	+36.2



３．資金繰り

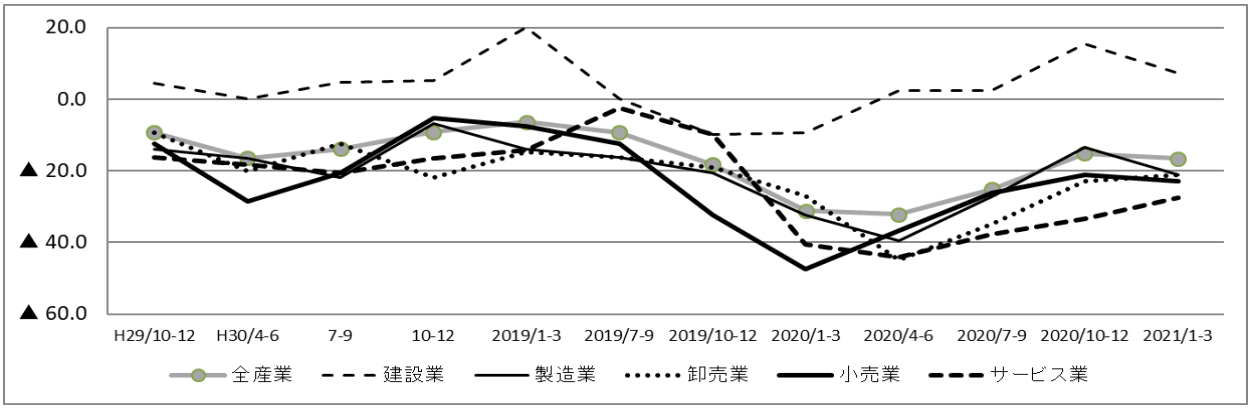
今期(1～3 月前年同期比)の資金繰りのＤＩ値は、全産業で▲16.6 と前期と比べわずかながら悪化した。

産業別では、建設業、製造業、小売業で悪化する一方、サービス業、卸売業は改善した。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲16.5 と今期と比べほぼ横ばいを見通している。

産業別では、小売業がほぼ横ばい、サービス業は改善を見通す一方、建設業、卸売業、製造業では悪化を見通している。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
		来期見通し(1～3月)		前期比	来期見通し(4～6月)	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 15.2	▲ 24.4	▲ 16.6	－1.4	▲ 16.5	+0.1
建設業	15.4	5.0	7.3	－8.1	▲ 2.4	－9.7
製造業	▲ 13.5	▲ 28.9	▲ 21.1	－7.6	▲ 23.1	－2.0
卸売業	▲ 22.9	▲ 20.0	▲ 21.2	+1.7	▲ 24.3	－3.1
小売業	▲ 21.1	▲ 40.5	▲ 22.9	－1.8	▲ 22.8	+0.1
サービス業	▲ 33.4	▲ 38.1	▲ 27.5	+5.9	▲ 12.5	+15.0



4．受注残（未消化工事高）

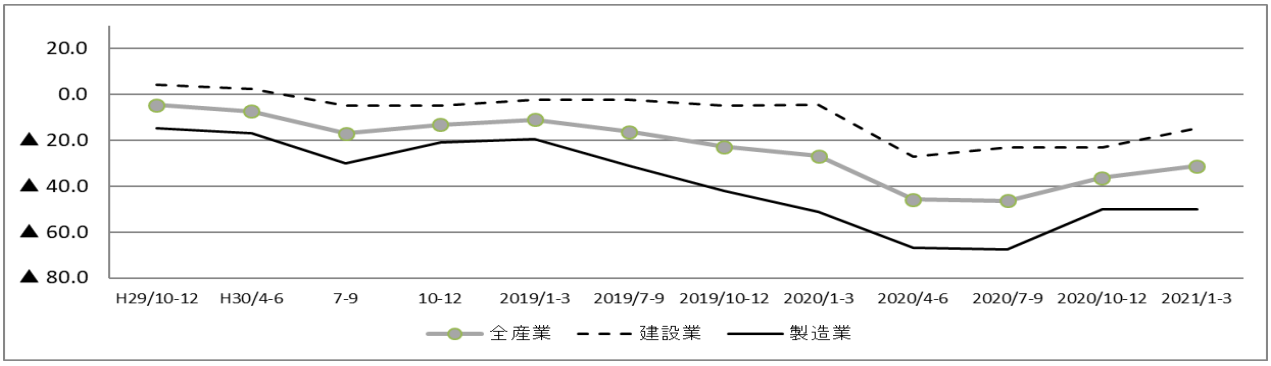
今期(1～3 月前年同期比)の受注残のＤＩ値は、全産業で▲31.2 と前期と比べ改善した。

産業別では、製造業は横ばい、建設業は改善した。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲21.5 と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、製造業はプラス 29.0 ポイントの大幅な改善を見通す一方、建設業は悪化を見通している。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
		来期見通し(1～3月)		前期比	来期見通し(4～6月)	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 36.4	▲ 30.7	▲ 31.2	+5.2	▲ 21.5	+9.7
建設業	▲ 23.1	▲ 27.5	▲ 14.6	+8.5	▲ 22.0	−7.4
製造業	▲ 50.0	▲ 34.2	▲ 50.0	0.0	▲ 21.0	+29.0



5．採算（経常利益）

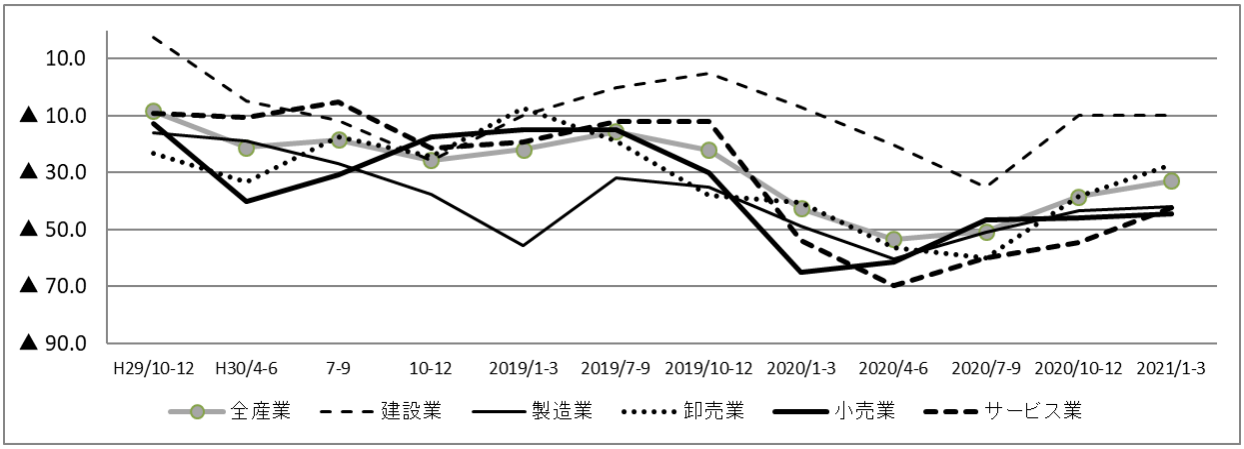
今期（1～3 月前年同期比）の採算のＤＩ値は、全産業で▲32.9 と前期と比べ改善した。

産業別では、すべての業種で改善した。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲26.6 と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、サービス業、小売業、製造業、卸売業で改善を見通す一方、建設業は大幅な悪化を見通している。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
		来期見通し(1～3月)		前期比	来期見通し(4～6月)	
	(A)	(B)	(C)	(C)－(A)	(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 38.4	▲ 42.4	▲ 32.9	+5.5	▲ 26.6	+6.3
建設業	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 9.8	+0.2	▲ 29.3	−19.5
製造業	▲ 43.3	▲ 47.3	▲ 42.1	+1.2	▲ 30.8	+11.3
卸売業	▲ 38.3	▲ 44.2	▲ 27.3	+11.0	▲ 21.2	+6.1
小売業	▲ 46.0	▲ 54.1	▲ 44.5	+1.5	▲ 28.6	+15.9
サービス業	▲ 54.7	▲ 47.7	▲ 42.5	+12.2	▲ 22.5	+20.0



６．従業員（含む臨時）

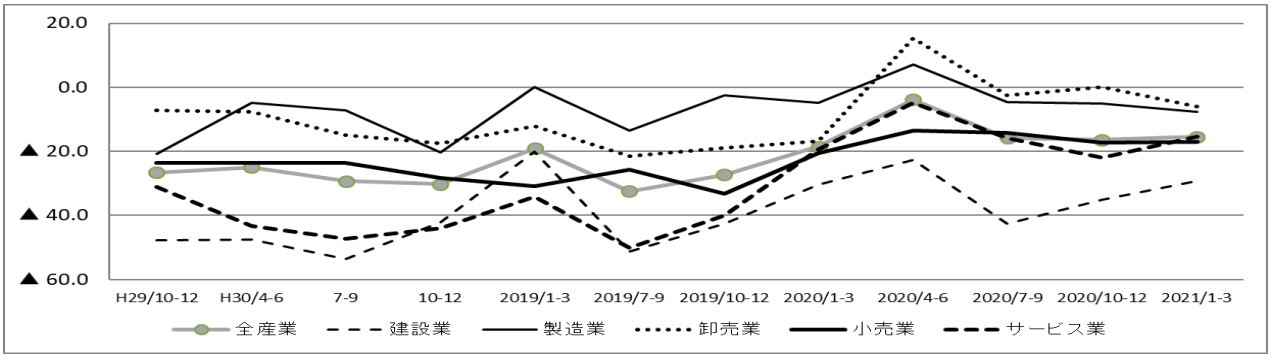
今期(1～3 月前年同期比)の従業員のＤＩ値は、全産業で▲15.5 と前期と比べわずかながら不足感を縮小した。

産業別では、小売業がほぼ横ばい、サービス業、建設業は不足感を縮小した。一方、卸売業、製造業は不足感を拡大した。

来期の見通し(4～6 月)では、全産業で▲19.3 と今期と比べ不足感の拡大を見通している。

産業別では、卸売業が横ばい、他の４業種は不足感の拡大を見通している。

	前期（10～12月）		今期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し(4～6月)	
	（A）	（B）	（C）	（C）−（A）	（D）	今期比（D）−（C）
全産業	▲ 16.4	▲ 11.6	▲ 15.5	+0.9	▲ 19.3	−3.8
建設業	▲ 35.0	▲ 27.5	▲ 29.3	+5.7	▲ 34.1	−4.8
製造業	▲ 5.2	▲ 2.7	▲ 7.7	−2.5	▲ 12.8	−5.1
卸売業	0.0	8.5	▲ 6.0	−6.0	▲ 6.0	0.0
小売業	▲ 17.2	▲ 17.2	▲ 17.1	+0.1	▲ 20.0	−2.9
サービス業	▲ 21.9	▲ 17.0	▲ 15.4	+6.5	▲ 20.5	−5.1



Ⅱ．産業別ＤＩ値

１．建設業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別ＤＩ値は、業況が▲12.5 と前期のプラスからマイナスに転じた。

項目別では、採算がほぼ横ばい、資金繰りがプラス幅を縮小する一方、受注残は改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「昨年 12 月の未成工事が減少したことにより、今期の完成工事額が減少」（職別工事）とのコメントがある一方、「今期は学校等空調関連の竣工が多かったこともあり、完成工事額は増加した」（設備工事）とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況が▲24.4 と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、完成工事額が横ばい、資金繰りが今期のプラスからマイナスに転じる見通しをしている。採算、受注残も悪化の見通しをしている。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「繰越工事が少ないため、４～６月は厳しい」（総合工事）とのコメントがある一方、「完成工事額、受注残とも増加の見込、経常利益は前年並確保の見込」（総合工事）とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し（4～6月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業　　況	2.5	▲ 22.5	▲ 12.5	−15.0	▲ 24.4	−11.9
完 成 工 事 額	2.5	▲ 2.5	▲ 22.0	−24.5	▲ 22.0	0.0
資　金　繰　り	15.4	5.0	7.3	−8.1	▲ 2.4	−9.7
受　　注　　残	▲ 23.1	▲ 27.5	▲ 14.6	+8.5	▲ 22.0	−7.4
採 算（経 常 利 益）	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 9.8	+0.2	▲ 29.3	−19.5
従 業 員（含 む 臨 時）	▲ 35.0	▲ 27.5	▲ 29.3	+5.7	▲ 34.1	−4.8

２．製造業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別ＤＩ値は、業況が▲38.5 と前期と比べ改善した。

項目別では、受注残が横ばい、採算、売上額がわずかながら改善した。一方、資金繰りは悪化した。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「昨年 12 月に惣菜部門に新規参入（月間３万円の売上）したことで菓子落ち込み分を確保」（食料品）とのコメントがある一方、「首都圏の緊急事態宣言並びに延長により、業務用を中心に売上が減少した。寒さのために家庭向けの出荷は好調であったものの、業務用の売上減を補うほどではなかった」（飲料品）とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況は▲35.1 と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、売上額、受注残、採算で改善を見通す一方、資金繰りはわずかながら悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「コロナの影響がいつまで続くか見通せない状況。昨年は緊急事態宣言により売上は約 30%減少したが、来期は売上の回復を見込んでいる」(食料品)とのコメントがある一方、「上半期は売上、受注量ともに伸びないとの情報が入っている（ゼネコン、各メーカーより)。その他、原材料価格も上昇してきており、不安がある」（金属製品）とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し（4～6月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業　　況	▲ 42.1	▲ 38.3	▲ 38.5	+3.6	▲ 35.1	+3.4
売　上　額	▲ 55.3	▲ 44.8	▲ 55.0	+0.3	▲ 20.0	+35.0
資　金　繰　り	▲ 13.5	▲ 28.9	▲ 21.1	−7.6	▲ 23.1	−2.0
受　　注　　残	▲ 50.0	▲ 34.2	▲ 50.0	0.0	▲ 21.0	+29.0
採 算（経 常 利 益）	▲ 43.3	▲ 47.2	▲ 42.1	+1.2	▲ 30.8	+11.3
従 業 員（含 む 臨 時）	▲ 5.2	▲ 2.7	▲ 7.7	−2.5	▲ 12.8	−5.1

３．卸売業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別ＤＩ値は、業況が▲37.5 と前期と比べ改善した。

項目別では、売上額が横ばい、採算、資金繰りが改善した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「今期は雪の被害で販売店からの注文が多く、助かった」（家電）とのコメントがある一方、「コロナの影響のほか、1～2 月の悪天候により小売店、道の駅、温泉等の売上が昨年より２、３割悪化」（雑貨）とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況が▲18.2 と今期と比べ大幅な改善を見通している。

項目別では、売上額、採算で改善を見通す一方、資金繰りはわずかながら悪化を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「昨年の４～６月がコロナで悪すぎたので、昨年よりはマシ。一昨年と比べると厳しい」（繊維）とのコメントがある一方、「コロナ禍の中、業務店の不振を量販店がある程度カバーできている。しかし、全体量はマイナスで売上高減少。反面、業務店向け高級食材が安価で利益率は向上」（水産物）とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し（4～6月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)−(A)	(D)	今期比 (D)−(C)
業　　況	▲ 45.7	▲ 45.7	▲ 37.5	+8.2	▲ 18.2	+19.3
売　上　額	▲ 51.4	▲ 60.0	▲ 51.5	−0.1	▲ 27.3	+24.2
資　金　繰　り	▲ 22.9	▲ 20.0	▲ 21.2	+1.7	▲ 24.3	−3.1
採算（経常利益）	▲ 38.3	▲ 44.2	▲ 27.3	+11.0	▲ 21.2	+6.1
従業員（含む臨時）	0.0	8.5	▲ 6.0	−6.0	▲ 6.0	0.0

４.小売業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別ＤＩ値は、業況が▲52.7 と前期と比べ悪化し、厳しい状況となった。

項目別では、売上額、資金繰りが悪化した。特に売上額はマイナス 33.5 ポイントと大幅に悪化した。一方、採算はわずかながら改善した。従業員はほぼ横ばいとなった。

企業からは、「新型コロナウイルス感染拡大により旅行客が著しく減少したため売上減少」（食料品）とのコメントがある一方、「県内では新型コロナウイルスの影響がほとんど無く、メーカーの商品改良等が相次いでいることから市場が活発化傾向にあり、商品の出荷遅れや販売価格の低下はあるものの、増収・増益となった」（自動車）とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況が▲19.5 と今期と比べプラス 33.2 ポイントの大幅な改善を見通している。

項目別では、資金繰りがほぼ横ばい、売上額、採算で大幅な改善を見通している。特に売上額はプラス 50.9 ポイントの大幅な悪化を見通している。従業員はわずかながら不足感の拡大を見通している。

企業からは、「全国的に新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状態であるが、メーカーの商品改良等でコンパクトカーを中心に市場が活発化しているため、前年同期の売上を上回る見込。ただし一部商品でメーカーの生産が逼迫していることに加え、半導体不足の影響から更に出荷遅れが予想される。」（自動車）とのコメントがある一方、「昨年は新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり需要により、売上増加しており、今年は対前年比としては減少している」（食料品）とのコメントがあった。

	前　期（10～12月）		今　期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し（4～6月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業　　況	▲ 44.7	▲ 60.5	▲ 52.7	−8.0	▲ 19.5	+33.2
売　上　額	▲ 36.8	▲ 71.0	▲ 70.3	−33.5	▲ 19.4	+50.9
資　金　繰　り	▲ 21.1	▲ 40.5	▲ 22.9	−1.8	▲ 22.8	+0.1
採算（経常利益）	▲ 46.0	▲ 54.1	▲ 44.5	+1.5	▲ 28.6	+15.9
従業員（含む臨時）	▲ 17.2	▲ 17.2	▲ 17.1	+0.1	▲ 20.0	−2.9

５．サービス業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別ＤＩ値は、業況が▲50.0 と前期と比べ改善したものの、厳しい状況が続いている。

項目別では、すべての項目で改善したものの、売上額は厳しい状況が続いている。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「３月は売上が減少するものの、１、２月に秋田県プレミアム付宿泊券の駆け込み需要があったため、今期は前年同等を見込む」（旅館）とのコメントがある一方、「新型コロナ及び大雪の影響により、売上が減少。３月末決算は過去 30 年間で最大の赤字を計上する見込」（運輸業）とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況が▲20.5 と今期と比べプラス 29.5 ポイントの大幅な改善を見通している。

項目別では、すべての項目で大幅な改善を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「前年同期は新型コロナウイルスの影響により、売上が激減したが、今期はワクチンの実施等により、明るい兆しが見え、売上増を予想。但し、例年の 50%程度の見込」（ホテル）とのコメントがある一方、「昨年は各種補助金等があったのでどうにか過ごせたが、今年は見通しがつかない」（写真）とのコメントがあった。

	前　期（10～12月）		今　期（1～3月）			
		来期見通し（1～3月）		前期比	来期見通し（4～6月）	
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業　　況	▲ 53.6	▲ 46.4	▲ 50.0	+3.6	▲ 20.5	+29.5
売　上　額	▲ 57.1	▲ 52.4	▲ 51.2	+5.9	▲ 15.0	+36.2
資　金　繰　り	▲ 33.4	▲ 38.1	▲ 27.5	+5.9	▲ 12.5	+15.0
採算（経常利益）	▲ 54.7	▲ 47.7	▲ 42.5	+12.2	▲ 22.5	+20.0
従業員（含む臨時）	▲ 21.9	▲ 17.0	▲ 15.4	+6.5	▲ 20.5	−5.1

Ⅲ. 設備投資

全産業における今期(1～3 月)の設備投資について､｢実施した｣とする企業は 68 件となり、前期と比べ 5 件減少した。

産業別では､｢実施した｣とする中で最も多かったのは、建設業、製造業（ともに 18 件)、次いでサービス業（16 件）の順となっている。

今期に｢実施した｣企業の設備内容で最も多かったのは､｢車両・運搬具｣（22 件）次いで、｢機械・設備・倉庫｣（16 件)､｢ＯＡ機器｣（15 件）の順となっている。

来期の計画では、全産業で｢計画している｣としたのは 53 件で、今期と比べ 15 件減少している。

産業別では､｢計画している｣とした中で最も多かったのは、製造業（14 件)、次いでサービス業（13 件)、小売業（11 件）の順となっている。

来期に｢計画している｣企業の設備内容については､｢車両・運搬具｣(14 件)､｢付帯施設｣(13 件)､｢機械・設備・倉庫｣(12 件）の順となっている。

設備投資状況　　（▲印：減、件数）

	前期（10～12月）				今期（1～3月）					
			来期の計画（1-3月）				前期比（※）	来期の計画（4-6月）		
	実施した (A)	実施しない	計画している (B)	計画していない	実施した (C)	実施しない	(C-A)	計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全産業	73	121	54	140	68	123	▲ 5	53	137	▲ 15
建設業	20	20	8	32	18	23	▲ 2	9	32	▲ 9
製造業	15	24	10	29	18	22	3	14	26	▲ 4
卸売業	12	23	9	26	6	27	▲ 6	6	27	0
小売業	9	29	13	25	10	27	1	11	25	1
サービス業	17	25	14	28	16	24	▲ 1	13	27	▲ 3

設備内容（複数回答）　　（件数）

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
① 土地	4	2	3	1	0	0	0	0	1	0	0	1
② 建物・工場・店舗	13	9	4	0	2	3	1	1	3	3	3	2
③ 機械・設備・倉庫	16	12	2	0	12	9	1	0	0	2	1	1
④ 車両・運搬具	22	14	6	4	3	0	5	1	2	3	6	6
⑤ 付帯施設	13	13	1	1	3	2	0	1	4	3	5	6
⑥ OA 機器	15	11	8	3	2	3	2	3	0	2	3	0
⑦ 福利厚生施設	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
⑧ その他	2	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0
合　計	85	64	24	9	23	18	9	7	11	14	18	16

Ⅳ．経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、製造業、卸売業、小売業、サービス業で「需要の停滞」を第１位に挙げている。建設業は「官公需要の停滞」を第１位に挙げている。

２位以下の項目では、建設業で「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」、製造業で「製品（加工）単価の低下・上昇難」「生産設備の不足・老朽化」、卸売業で「販売価格の低下・上昇難」「仕入単価の上昇」、小売業で「人件費以外の経費の増加」、サービス業で「利用者ニーズの変化への対応」「店舗施設の狭隘・老朽化」を問題点として挙げており、需要の停滞による売上の伸び悩みに加え、従業員・熟練技術者の確保難、製品（加工）・販売単価の低下・上昇難、利用者ニーズの変化への対応、生産設備の不足・老朽化、店舗・施設の狭隘・老朽化、人件費以外の経費の増加等が経営課題となっていることが窺える。

	１位		２位		３位	
建設業	官公需要の停滞		従業員の確保難		熟練技術者の確保難	
	23.7%	9 件	27.3%	9 件	20.0%	6 件
製造業	需要の停滞		製品（加工）単価の低下・上昇難		生産設備の不足・老朽化	
	48.6%	18 件	18.8%	6 件	25.0%	7 件
卸売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇	
	50.0%	15 件	28.0%	7 件	21.7%	5 件
小売業	需要の停滞		需要の停滞		人件費以外の経費の増加	
	25.0%	8 件	38.5%	10 件	23.8%	5 件
サービス業	需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	41.0%	16 件	26.5%	9 件	25.8%	8 件

＊%は１位、２位、３位それぞれの回答数（＝１００%）の割合を示したもの。

参考：１～３位を累計した場合

	１位		２位		３位	
建設業	熟練技術者の確保難		従業員の確保難		官公需要の停滞	
	19.8%	20 件	17.8%	18 件	15.8%	16 件
製造業	需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		原材料価格の上昇	
	23.7%	23 件	13.4%	13 件	11.3%	11 件
卸売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難	
	29.5%	23 件	17.9%	14 件	16.7%	13 件
小売業	需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		同業者の進出 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇	
	24.1%	19 件	13.9%	11 件	7.6%	6 件
サービス業	需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化 従業員の確保難	
	20.2%	21 件	16.3%	17 件	12.5%	13 件

＊%は１位から３位までの総回答数（＝１００%）の割合を示したもの。

【付帯調査】
◎新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する調査

Ⅴ．業務への影響について

・業務への影響について聞いたところ、回答のあった 172 社中、①「影響が続いている」が 83 社 48.3%、次いで②「経済活動の停滞が長期化すると影響が出る懸念がある」の 68 社 39.5%、③「影響はない」の 21 社 12.2%の順となった。
・前回の回答と比べると③「影響はない」の割合が若干増加したものの、依然として約半数の企業が①「影響が続いている」ことが窺える結果となった。

選　　択　　肢	社数	構成比(%)
①影響が続いている	83 (96)	48.3 (49.0)
②経済活動の停滞が長期化すると影響が出る懸念がある	68 (83)	39.5 (42.3)
③影響はない	21 (17)	12.2 (8.7)
合　計	172 (196)	100.0 (100.0)

※（　　）は前回調査の数字

Ⅵ．資金繰りの対応について

・資金繰りの対応について聞いたところ、回答のあった 172 社中、②「資金繰りの相談は現時点で必要ない」が 85 社 49.4%、次いで①「金融機関への相談を行なった」の 57 社 33.1%、③「資金繰りに不安はあるが相談はしていない」の 30 社 17.5%の順となった。

選　　択　　肢	社数	構成比（%）
①金融機関への相談を行なった	57	33.1
②資金繰りの相談は現時点で必要ない	85	49.4
③資金繰りに不安はあるが相談はしていない	30	17.5
合　計	172	100.0

Ⅶ．相談した具体的な内容について

・相談した具体的な内容について聞いたところ、回答のあった 57 社中、①「希望する額・条件での新規融資を受けた」が 42 社 73.3%、次いで②「既往債務の借換を行なった」、④「相談・審査待ちの状況」がともに 6 社 10.5%の順となった。

選　　択　　肢	社数	構成比（%）
①希望する額・条件での新規融資を受けた	42	73.7
②既往債務の借換を行なった	6	10.5
③既往債務の返済猶予等の条件変更を受けた	2	3.5

④相談・審査待ちの状況	6	10.5
⑤融資希望額より少ない額または短期間での返済となった	1	1.8
合　計	57	100.0

Ⅷ. 来年度の雇用や採用関連の動きについて（複数回答）

・来年度の雇用や採用関連の動きについて聞いたところ、回答のあった 172 社（265 件）中、⑭「該当なし」の 113 件 42.6%が最も多かった。影響が見込まれる中では⑩「雇用調整助成金を既に活用し、今後も継続して活用を検討」が 26 件 9.8%、次いで①「新卒採用（正社員）を縮小・見送る」の 25 件 9.4%、②「中途採用（正社員）を縮小・見送る」の 24 件 9.1%の順となった。

選　択　肢	件数	構成比（%）
①新卒採用（正社員）を縮小・見送る	25	9.4
②中途採用（正社員）を縮小・見送る	24	9.1
③パート・アルバイト等（非正規社員）の採用を縮小・見送る	18	6.8
④派遣労働者の人数を縮小、労働者の派遣自体を見送る	4	1.5
⑤正社員の休業を実施	18	6.8
⑥パート・アルバイト等（非正規社員）の休業を実施	15	5.7
⑦派遣契約を維持した上で派遣労働者の休業を実施	1	0.4
⑧従業員の人員整理（整理解雇、雇止め等）を検討・実施	4	1.5
⑨雇用調整助成金の活用を検討している	4	1.5
⑩雇用調整助成金を既に活用し、今後も継続して活用を検討	26	9.8
⑪雇用調整助成金を活用したが、今後活用しない	2	0.8
⑫雇用調整助成金制度がわからない・これまで活用したことがなく、今後の活用も検討していない	7	2.6
⑬その他	4	1.5
⑭該当なし	113	42.6

○その他のコメント

・製造業

・パート等の人員は必要としているので募集を続けたいと思う（水産物）金森水産
・新卒１名採用予定（食料品）榮太楼
・優れた人材の確保、新規雇用の継続（金属製品）千代田興業

・小売業

・現時点ではかろうじて自己資本を回して経営しているが、状況によっては選択肢のいずれかを利用させていただくこともありえるかも（飲料品）太平堂茶舗

Ⅸ　総括表

秋田市内企業景況調査

全産業別景気判断比較表（DI値）

（第4四半期：2021年1月～3月）

（▲マイナス）

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期（10～12月）		今期（1～3月）				前期（10～12月）		今期（1～3月）				前期（10～12月）		今期（1～3月）			
		来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)			来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)			来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)	
	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）
全産業	▲ 36.5	▲ 42.5	▲ 38.0	−1.5	▲ 23.6	+14.4	▲ 39.3	▲ 45.6	▲ 49.5	−10.2	▲ 20.5	+29.0	▲ 15.2	▲ 24.4	▲ 16.6	−1.4	▲ 16.5	+0.1
建設業	2.5	▲ 22.5	▲ 12.5	−15.0	▲ 24.4	−11.9	2.5	▲ 2.5	▲ 22.0	−24.5	▲ 22.0	0.0	15.4	5.0	7.3	−8.1	▲ 2.4	−9.7
製造業	▲ 42.1	▲ 38.3	▲ 38.5	+3.6	▲ 35.1	+3.4	▲ 55.3	▲ 44.8	▲ 55.0	+0.3	▲ 20.0	+35.0	▲ 13.5	▲ 28.9	▲ 21.1	−7.6	▲ 23.1	−2.0
卸売業	▲ 45.7	▲ 45.7	▲ 37.5	+8.2	▲ 18.2	+19.3	▲ 51.4	▲ 60.0	▲ 51.5	−0.1	▲ 27.3	+24.2	▲ 22.9	▲ 20.0	▲ 21.2	+1.7	▲ 24.3	−3.1
小売業	▲ 44.7	▲ 60.5	▲ 52.7	−8.0	▲ 19.5	+33.2	▲ 36.8	▲ 71.0	▲ 70.3	−33.5	▲ 19.4	+50.9	▲ 21.1	▲ 40.5	▲ 22.9	−1.8	▲ 22.8	+0.1
サービス業	▲ 53.6	▲ 46.4	▲ 50.0	+3.6	▲ 20.5	+29.5	▲ 57.1	▲ 52.4	▲ 51.2	+5.9	▲ 15.0	+36.2	▲ 33.4	▲ 38.1	▲ 27.5	+5.9	▲ 12.5	+15.0

	受注残（未消化工事高）						採算（経常利益）						従業員（含む臨時）					
	前期（10～12月）		今期（1～3月）				前期（10～12月）		今期（1～3月）				前期（10～12月）		今期（1～3月）			
		来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)			来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)			来期見通（1～3月）		前期比	来期見通(4～6月)	
	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）	（A）	（B）	（C）	（C）-（A）	（D）	今期比（D）-（C）
全産業	▲ 36.4	▲ 30.7	▲ 31.2	+5.2	▲ 21.5	+9.7	▲ 38.4	▲ 42.4	▲ 32.9	+5.5	▲ 26.6	+6.3	▲ 16.4	▲ 11.6	▲ 15.5	+0.9	▲ 19.3	−3.8
建設業	▲ 23.1	▲ 27.5	▲ 14.6	+8.5	▲ 22.0	−7.4	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 9.8	+0.2	▲ 29.3	−19.5	▲ 35.0	▲ 27.5	▲ 29.3	+5.7	▲ 34.1	−4.8
製造業	▲ 50.0	▲ 34.2	▲ 50.0	0.0	▲ 21.0	+29.0	▲ 43.3	▲ 47.3	▲ 42.1	+1.2	▲ 30.8	+11.3	▲ 5.2	▲ 2.7	▲ 7.7	−2.5	▲ 12.8	−5.1
卸売業	—	—	—	—	—	—	▲ 38.3	▲ 44.2	▲ 27.3	+11.0	▲ 21.2	+6.1	0.0	8.5	▲ 6.0	−6.0	▲ 6.0	0.0
小売業	—	—	—	—	—	—	▲ 46.0	▲ 54.1	▲ 44.5	+1.5	▲ 28.6	+15.9	▲ 17.2	▲ 17.2	▲ 17.1	+0.1	▲ 20.0	−2.9
サービス業	—	—	—	—	—	—	▲ 54.7	▲ 47.7	▲ 42.5	+12.2	▲ 22.5	+20.0	▲ 21.9	▲ 17.0	▲ 15.4	+6.5	▲ 20.5	−5.1

※DI値：「増加」-「好転」したとする企業割合から「減少」-「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H13.10月より）

第1四半期　4月～ 6月期
第2四半期　7月～ 9月期
第3四半期　10月～12月期
第4四半期　1月～ 3月期

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）
（第4四半期：2021年1月～3月）

1．今期の状況

業種＼項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	14	88	85	24	48	118	12	132	43	10	33	34	21	84	83	18	122	47
	%	7.5	47.1	45.5	12.6	25.3	62.1	6.4	70.6	23.0	13.0	42.9	44.2	11.2	44.7	44.1	9.6	65.2	25.1
	DI	▲ 38.0			▲ 49.5			▲ 16.6			▲ 31.2			▲ 32.9			▲ 15.5		
建設業	実数	4	27	9	8	16	17	6	32	3	7	21	13	6	25	10	3	23	15
	%	10.0	67.5	22.5	19.5	39.0	41.5	14.6	78.0	7.3	17.1	51.2	31.7	14.6	61.0	24.4	7.3	56.1	36.6
	DI	▲ 12.5			▲ 22.0			7.3			▲ 14.6			▲ 9.8			▲ 29.3		
製造業	実数	5	14	20	6	6	28	0	30	8	3	12	21	4	14	20	6	24	9
	%	12.8	35.9	51.3	15.0	15.0	70.0	0.0	78.9	21.1	8.3	33.3	58.3	10.5	36.8	52.6	15.4	61.5	23.1
	DI	▲ 38.5			▲ 55.0			▲ 21.1			▲ 50.0			▲ 42.1			▲ 7.7		
卸売業	実数	1	18	13	3	10	20	1	24	8				4	16	13	2	27	4
	%	3.1	56.3	40.6	9.1	30.3	60.6	3.0	72.7	24.2				12.1	48.5	39.4	6.1	81.8	12.1
	DI	▲ 37.5			▲ 51.5			▲ 21.2						▲ 27.3			▲ 6.0		
小売業	実数	2	13	21	3	5	29	2	23	10				3	14	19	0	29	6
	%	5.6	36.1	58.3	8.1	13.5	78.4	5.7	65.7	28.6				8.3	38.9	52.8	0.0	82.9	17.1
	DI	▲ 52.7			▲ 70.3			▲ 22.9						▲ 44.5			▲ 17.1		
サービス業	実数	2	16	22	4	11	24	3	23	14				4	15	21	7	19	13
	%	5.0	40.0	55.0	10.3	28.2	61.5	7.5	57.5	35.0				10.0	37.5	52.5	17.9	48.7	33.3
	DI	▲ 50.0			▲ 51.2			▲ 27.5						▲ 42.5			▲ 15.4		

※DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29．4月より）

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）
（第4四半期：2021年1月～3月）

2．来期の見通し

業種＼項目		業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	23	96	67	37	77	76	14	129	45	8	46	25	22	94	72	15	121	51
	%	12.4	51.6	36.0	19.5	40.5	40.0	7.4	68.6	23.9	10.1	58.2	31.6	11.7	50.0	38.3	8.0	64.7	27.3
	DI	▲ 23.6			▲ 20.5			▲ 16.5			▲ 21.5			▲ 26.6			▲ 19.3		
建設業	実数	2	27	12	6	20	15	2	36	3	6	20	15	3	23	15	2	23	16
	%	4.9	65.9	29.3	14.6	48.8	36.6	4.9	87.8	7.3	14.6	48.8	36.6	7.3	56.1	36.6	4.9	56.1	39.0
	DI	▲ 24.4			▲ 22.0			▲ 2.4			▲ 22.0			▲ 29.3			▲ 34.1		
製造業	実数	3	18	16	7	18	15	2	26	11	2	26	10	3	21	15	5	24	10
	%	8.1	48.6	43.2	17.5	45.0	37.5	5.1	66.7	28.2	5.3	68.4	26.3	7.7	53.8	38.5	12.8	61.5	25.6
	DI	▲ 35.1			▲ 20.0			▲ 23.1			▲ 21.0			▲ 30.8			▲ 12.8		
卸売業	実数	4	19	10	4	16	13	1	23	9				4	18	11	2	27	4
	%	12.1	57.6	30.3	12.1	48.5	39.4	3.0	69.7	27.3				12.1	54.5	33.3	6.1	81.8	12.1
	DI	▲ 18.2			▲ 27.3			▲ 24.3						▲ 21.2			▲ 6.0		
小売業	実数	8	13	15	11	7	18	3	21	11				6	13	16	0	28	7
	%	22.2	36.1	41.7	30.6	19.4	50.0	8.6	60.0	31.4				17.1	37.1	45.7	0.0	80.0	20.0
	DI	▲ 19.5			▲ 19.4			▲ 22.8						▲ 28.6			▲ 20.0		
サービス業	実数	6	19	14	9	16	15	6	23	11				6	19	15	6	19	14
	%	15.4	48.7	35.9	22.5	40.0	37.5	15.0	57.5	27.5				15.0	47.5	37.5	15.4	48.7	35.9
	DI	▲ 20.5			▲ 15.0			▲ 12.5						▲ 22.5			▲ 20.5		

※DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29．4月より）

参 考

市内景況調査に対する各企業のコメント

Ⅰ今期の特徴（2021 年 1-3 月）

１ 建 設 業

- 完成工事または次年度に完成が延びた工事が多い（総合工事）英明工務店
- 受注がコンスタントに取れた（総合工事）加藤哲建築事務所
- 完成工事額は前年並だが利益率が低下している（総合工事）住建トレーディング
- 土木の大型工事が完成期となる。その他は変化なし。採算面は横ばい（総合工事）中田建設
- 年度末完成工事がないため、完成工事額が少ない（総合工事）長谷駒組
- 完成工事額は増加するも粗利率の低下により経常利益は前期並（総合工事）山岡工業
- 今期は受注工事が少なく、採算はあまりとれなかった（職別工事）大松建設
- 工事量は全体的に少ないが、その分経費もかからない（職別工事）秋田止水
- 官庁発注分が３月で区切りがついた（職別工事）秋田ホーチキ
- 昨年 12 月の未成工事が減少し、今期の完成工事額が減少（職別工事）丸谷塗装工業
- 完成工事額は 65,283 千円。昨年比で 3,345 千円増加。毎年のことだが、今年３月は 9,405 千円で今期成果が得られて一息の状態（設備工事）千代田電設
- 暴風雪、災害復旧工事が増加した（設備工事）秋田鈴木電工
- 外注費及び材料費が上がっており、採算も悪化している（設備工事）千代田電気工業
- 今期は学校等空調関連の竣工が多かったこともあり、完成工事額は増加した（設備工事）山二施設工業

２ 製 造 業

- 首都圏の緊急事態宣言並びに延長により、業務用を中心に売上が減少した。寒さのために家庭向けの出荷は好調であったものの、業務用の売上減を補うほどではなかった（飲料品）秋田酒類製造
- 依然として自粛ムードで人手が回復せず（飲料品）北斗製氷
- 天候の悪さ、漁獲の不安定さ、コロナの影響で市況の悪さが重なっている状況（水産物）金森水産
- 昨年 12 月に惣菜部門に新規参入（月間３万円の売上）したことで菓子落ち込み分を確保（食料品）榮太楼
- 緊急事態宣言の発令とその長期化に伴い、人の交流減少と時折の荒天の影響を受け、売上高は大幅な減少となり、収支も依然厳しい状況が続いている（食料品）かおる堂
- アパレルは全滅状態である（衣服）縫工
- 修理が中心で新規案件が出なかった（木製品）池田木型製作所
- 首都圏の緊急事態宣言の影響により、県外営業ができない状況が長引いて受注の大幅な減少が続いている（印刷業）秋田活版印刷
- １、２月が前年と比べ悪化した（印刷業）フロム・エー
- 冬期の受注減少が昨年度より悪化した（金属製品）旭工業
- 首都圏の受注状況は、オリンピックが今年に延期された影響で、昨年同期と比較すると減少している（金属製品）佐々木製作所
- 輸出の増加による売上増加（金属製品）北光金属工業
- 先行き不透明感からか需給面で少し動きが悪く、価格も低迷（金属製品）千代田興業
- 売上が２倍に増加したが、昨夏減少分が移動したものが含まれる（金属製品）五十鈴製作所

３ 卸 売 業

- 大雪とコロナで全体的に客数が落ち、売上にも影響している（繊維）丸島商事
- 前年があまりにひどく、今期は例年に戻りつつある（食料品）秋印秋田中央青果
- 良くも悪くも新型コロナウイルスの影響はない（建築材料）秋田東北商事
- 今期は雪の被害で販売店からの注文が多く、助かった（家電）秋田アンテナ
- コロナの影響のほか、1～2 月の悪天候により小売店、道の駅、温泉等の売上が昨年より２、３割悪化（雑貨）しもむら
- 昨年の１～２月はコロナの影響がなかったが、今期はコロナの影響が大きい（物産）秋田県産

・ 前年同期ほどの勢いは感じられないが、計画は達成する見込である（建設資材）山二環境機材

４ 小 売 業

・ 年末年始からずっと人出が少なく大変だ（時計）ワタナベ時計店
・ １月の初売が前年の 50%だった（カバン）モリタ
・ ３月より売上が好転している。セレモニー関連の商品はまだ低迷しているが、デイリー商品は気温の上昇とともに動き出した（身の回り品）インフィニティ
・ 専門店や百貨店の苦戦が続いている。ニューノーマル（新常態）になる？（飲料品）太平堂茶舗
・ 新型コロナウイルス感染拡大により旅行客が著しく減少したため売上減少（食料品）フルゥール
・ コロナ対策での持ち帰り需要があり、今期は昨年より悪かった（食料品）ディアポーク
・ 大雪により売上が増加した（自動車用品）東北安全ガラス
・ 県内では新型コロナウイルスの影響がほとんど無く、メーカーの商品改良等が相次いでいることから市場が活発化傾向にあり、商品の出荷遅れや販売価格の低下はあるものの、増収・増益となった（自動車）秋田トヨタ自動車
・ 売上は減少しているが、採算は何とか維持している（家電）日生電機商会
・ ２月の気温上昇により灯油製品の売上減少から減収となった（燃料）協和石油
・ 昨年の３月はコロナでキャンセルが相次いだ。今年は例年に近い状況。ただ。葬儀・結婚披露宴など大きな宴会等はないのでトータルではマイナス（生花）花のさとう

５ サービス業

・ 顧客がコロナに対して不安感が強く、注文が減っている（洗濯）サンクリーン真美商会
・ ３月は売上が減少するものの、１、２月に秋田県プレミアム付宿泊券の駆け込み需要があったため、今期は前年同等を見込む（旅館）さとみ
・ 昨年と比較すると予想に反して伸び悩んでいる状況（自動車整備）藤原自動車
・ １～３月期は例年売上が増加するが昨年比では減少した（情報サービス）北日本コンピュータサービス
・ 前年度より売上減少するも特需案件により売上確保（情報サービス）日情秋田システムズ
・ 利益率が向上した（広告）アートシステム
・ コロナウイルスによるイベント等の中止が続いている（写真）旭写真
・ コロナ禍の影響により売上が伸びない（ビルメンテナンス）友愛ビルサービス
・ 新型コロナ及び大雪の影響により、売上が減少。３月末決算は過去 30 年間で最大の赤字を計上する見込（運輸業）秋田中央交通
・ 前年度比で売上が減少したが、利益率はある程度確保できた（賃貸）斉勇

Ⅱ 来期の見通し（2021 年 4-6 月）

１ 建 設 業

・ 今期から延びる工事と新規工事が出て忙しくなる見込（総合工事）英明工務店
・ 土地在庫の販売が売上に貢献する（総合工事）加藤哲建築事務所
・ 時期的に引き合いが増える時だが、例年通りになる見通し（総合工事）奥羽住宅産業
・ 昨年の４～６月は資材の納期遅れで進捗が悪かった。今年は心配ない（総合工事）ドリームビルド
・ 民間受注できたので少し良い（総合工事）水原工務店
・ 完成工事額、受注残とも増加の見込、経常利益は前年並確保の見込（総合工事）住建トレーディング
・ 繰越工事が少ないため、４～６月は厳しい（総合工事）中田建設
・ 民間工事が中心となる見込（総合工事）長谷駒組
・ 不透明の状況であり、業況の悪化が懸念される（総合工事）山岡工業
・ 受注する工事があっても完成する工事はないと思う（職別工事）大松建設
・ 工事の注文は例年より多くなっているが、夏から秋にかけてはわからない（職別工事）秋田止水
・ ４月からはリニューアルの施工と受注に力を注ぐ（職別工事）秋田ホーチキ
・ 年度末の補正予算に関わる公共工事発注が無い（職別工事）丸谷塗装工業
・ 新規の案件が増えたため、完成工事額が増加する予想（設備工事）管通
・ JR 関係はほとんど見込がない。情報を頼りに頑張る（設備工事）千代田電設

・ 設備修繕関連工事が中心となる見込（設備工事）秋田鈴木電工
・ コロナ及び少子化の影響があり、今期よりも悪化する（設備工事）千代田電気工業
・ ３月竣工が多いため、この期は手持工事が極端に減少する（設備工事）山二施設工業

２ 製 造 業

・ 歓迎会、お花見、連休前の流通在庫の積み増しなどで荷動きが活発になる時期であるが、新型コロナウイルス接種も一部に留まり、状況の大きな改善は期待できない（飲料品）秋田酒類製造
・ 今期と同様期待できない（飲料品）北斗製氷
・ 経済活動の停滞による売上減を見込む(食料品)ヤマヨ
・ 昨年はコロナの影響をまともに受けたが、今年はやや冷静な状態となることを期待する（水産物）金森水産
・ コロナの影響がいつまで続くか見通せない状況。昨年は緊急事態宣言により売上は約 30%減少したが、来期は売上の回復を見込んでいる(食料品）榮太楼
・ コロナのワクチン接種の開始等で感染改善を見込んでいるが、先行き不透明であり、前年並の売上を基準に収支見込を計画している(食料品)かおる堂
・ 衣類は売れる気配がない（衣服）縫工
・ 当面停滞が予想されるので営業に力を入れたい（木製品）池田木型製作所
・ イベントの開催が中止・延期から小規模ながら開催の方向で動きがある点は昨年よりプラスに傾く見込（印刷業）秋田活版印刷
・ 良くなるように思えない（印刷業）フロム・エー
・ ６、７月のコロナ第４波の状況に左右される（印刷業）秋田シール印刷
・ ４月以降、業績の回復が見込まれる（金属製品）旭工業
・ 上半期は売上、受注量ともに伸びないとの情報が入っている（ゼネコン、各メーカーより）。その他、原材料価格も上昇してきており、不安がある（金属製品）佐々木製作所
・ 受注回復による売上増加を見込む（金属製品）北光金属工業
・ 先行き見通しが立たず価格低迷（金属製品）千代田興業
・ 現時点では受注残が前年比 50%減であるが、コロナの動向に左右される可能性が大きい（金属製品）五十鈴製作所

３ 卸 売 業

・ 昨年の４～６月がコロナで悪すぎたので、昨年よりはマシ。一昨年と比べると厳しい（繊維）丸島商事
・ 前年４～６月が一番大変な時期だったが、例年と同じくらいと思われる（食料品）秋印秋田中央青果
・ コロナ禍の中、業務店の不振を量販店がある程度カバーできている。しかし、全体量はマイナスで売上高減少。反面、業務店向け高級食材が安価で利益率は向上（水産物）丸水秋田中央水産
・ 引き続き新型コロナウイルスの影響はない見通し（建設資材）秋田東北商事
・ コロナが落ち着いて人々が動くことを期待している（雑貨）しもむら
・ 今期もコロナの影響が続くと思われるが、昨年の最悪の状況よりは改善すると思う（物産）秋田県産
・ 不需要期につき、例年並みの実績で推移すると思われる（建設資材）山二環境機材

４ 小 売 業

・ 去年に比べると良くなるだろうと思うがかなり不安だ（時計）ワタナベ時計店
・ 昨年のコロナの影響と比較して売上増加を見込む（メガネ）メガネの平川
・ 昨年４～６月は店舗休業があったため、その期間よりは少し売上は上がる見通し（カバン）モリタ
・ 昨年はコロナの影響でこの期間中に休業もあり、売上は大きくマイナスした。そのため、まだ景気は回復していないが、昨対で売上は大きく伸びると思われる（身の回り品）インフィニティ
・ コロナ禍であっても、昨年より人々は対応に慣れてくるのではないか（洋服）平徳本店
・ 経済指標は上向いている部分もあるようだが前年より改善する要素が見当たらない（飲料品）太平堂茶舗
・ 新型コロナウイルスワクチンの普及によりけり（食料品）フルゥール
・ ゴールデンウィーク中の売上が不透明（食料品）ディアポーク
・ 昨年は新型コロナウイルス感染症拡大による「巣ごもり需要」により、売上増加しており、今年

は対前年比としては減少している（食料品）ナイス
- ５月の連休に自動車が動けば売上増加も見込める（自動車用品）東北安全ガラス
- レジャー関連商品が売れなくなる（キャンプ用品は別）（自動車用品）アルビス
- 全国的に新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、メーカーの商品改良等でコンパクトカーを中心に市場が活発化しているものの、一部商品でメーカーの生産が逼迫していることに加え、半導体不足の影響から更に出荷遅れが予想されるが前年同期の売上を上回る見込（自動車）秋田トヨタ自動車
- 売上上昇は見込めないが、採算が良くなるよう資金を維持したい（家電）日生電機商会
- 昨年４～６月は売上の底であり、現状からは増加が見込まれるが、採算は悪化の可能性もある（燃料）協和石油
- コロナ禍で昨年と同水準と予想される（生花）花のさとう
- 新メニューによる売上拡大を見込む（化粧品）CFC

５ サービス業

- コロナにつきる（寝具）秋田基準寝具
- 今期と同様を見込む（洗濯）サンクリーン真美商会
- 前年は長期休館したこともあり、前年と比較すると好転する。しかし、例年と比べると非常に厳しい状況である（旅館）さとみ
- 前年同期は新型コロナウイルスの影響により、売上が激減したが、今期はワクチンの実施等により、明るい兆しが見え、売上増を予想。但し、例年の 50%程度の見込（ホテル）アルバートホテル
- 前年並に推移か（自動車整備）藤原自動車
- 全体的に前年比で減少する見込（情報サービス）北日本コンピュータサービス
- 一部大型案件により売上計上も他案件では縮小傾向（情報サービス）日情秋田システムズ
- 単価下落が見込まれるが、商品、サービスの見直しとローコストオペレーションへの変革を行うことで収益構造の改善を図る（専門サービス）こすもす秋田
- 昨年は各種補助金等があったのでどうにか過ごせたが、今年は見通しがつかない（写真）乳井写真館
- 昨年４～６月が最も悪かったのでそれよりは悪くはないと考えている（写真）旭写真
- ４月からの官公庁の入札物件に大いに価格の上昇を期待している（ビルメンテナンス）友愛ビルサービス
- 貸切バスの需要が急回復することは見込みにくく、当面は昨年並で推移するものと思われる（運輸業）秋田中央交通
- コロナウイルスの影響が今後も続くと思われる（運輸業）秋田丸果運輸
- 公共工事が早めに発注され、昨年度と同程度が期待される（賃貸）斉勇
- コロナの影響はない（飲食店）八屋